

生きること「Life」

～日本中国ミャンマーを比較して～

指導教員：准教授 高田 亮子

担当学生：谷口 理湖、谷本 晏路、チッチッエイ、鶴木 望葵、ティリジン、田園、
中井 聖菜

I. 目的

1. 退職した後の社会的役割について知る。
2. 3カ国の高齢者の退職後について知る。
3. 高齢者の生きがいについて知る。

II. 方法

1. 各市でのシルバー人材センターでのインタビュー
2. 各市の高齢化率 2015年富山市 28.3% 滑川 28.7% 射水市 28.8% 砺波 28.4% 全国 26.6%
3. 各国、各市での統計調査を用いた実態把握
4. シルバー人材センターでの活動参加

III. 結果

各国の人口・高齢化率・死亡率（表2）

	日本	中国	ミャンマー
退職年齢	60歳：91.1% 61歳以上：8.7% 65歳以上：6.2%	男60歳 女55歳 ※仕事内容によって異なる	60歳
定年後の暮らし	日本の退職後の問題点として高齢化に伴い年金の引き上げがある。平均寿命が延びたことで退職前に十分な貯蓄がなければ、年金のみでは生活することができない。さらに少子化・人口減少が進行する下で労働力の確保が重要な課題となっており高齢者の労働の	中国では、基本的には、決められた年齢に退職しなければいけない。退職後も生活ができるほどの退職金をもらえるがそれでも足りない場合は、アルバイトを行っている。多くの人は、公園や広場	働かなくても政府が年金を支給されているので、正社員として働けず、退職することが義務づけられている。自分が勤めた時間によって、年金の支給額が異なる。ミャンマーの年金は生活ができないほど少ないので、正社員としてではなく、アルバイトをして生計を立てている。年金受領者が亡くなったら、配偶者が代わりに受け取り、両親

	需要が高まっている。さらに社会参加のためや地域活動参加のために働くということもある。	で創作ダンスや社交ダンスをして体力づくりをしたりしている。	が亡くなれば、18歳未満までの子供は受け取ることができる。90歳以上の長期高齢者に1か月日本円で800円支給される。
実際にインタビューを行った結果	貯蓄がなければ生活をするのができない。元気なうちは働き、孫へのお小遣いや自分の趣味や旅行に行くお金を稼ぎたいという希望がある。	お金に困っていない人は、自分の趣味に没頭している。お金に困っている人は、一から職を探さなければいけないので困っている。	働きたくても退職が強制のため働くことができず、絶望感を抱いている。社会参加が減少傾向。
参考文献	厚生労働省ホームページ 独立行政法人労働政策研究・研修機構 https://baike.baidu.com 百度百科		

各国の退職年齢・定年後の暮らし・インタビュー結果（表1）

	ミャンマー	日本	中国
総人口	5659万	1億2427万4318	14億3378万4000
高齢者率	6.01%	28%	12.6%
死亡率	8.2%	11.2%	7.1%
新生児死亡	23398人 51.8%	1086人 47.8%	202932人 69.6%
5歳未満死亡	46220人 51.1%	3143人 47.5%	235612人 66.8%

シルバー人材センターでの質問内容（表3）

	富山市	射水市	砺波市	滑川市
担当者：日付	ティリジン、中井：10/29	谷本、チッチェイ：10/26	田園：10/21	谷口、鶴木：10/21
働きたい理由	生きがい、社会参加、健康維持増進、経済的理由	地域に貢献したい、健康、年金のため	お小遣いのため、軽い仕事をしたい、生きがい、友達作り、健康のため	生きがい、健康と生活リズムのため

現在の仕事	3 割外仕事（草刈り、リフォーム系の作業）	事務、受付	剪定、雪吊り、障子、ふすま、網戸の張替え、警備管理、整備	塩作り
以前の仕事	会社員（技術、事務系）、専業主婦	国家公務員、バスガイド、製造業	公務員、会社員、自営業、専業主婦	会社員、スーパーの総菜づくり、専業主婦
お金の使い道	趣味、孫にお小遣い	趣味	趣味、お小遣い、生活費	奥さんに、お金のことは任せているから分からない、へそくり、孫にお小遣い
趣味	キルト、パソコン、焼き物、縫物、掛け軸、彫刻、パークゴルフ	サッカーの応援、畑、パークゴルフ、卓球、カラオケ、民謡	畑、ウォーキング	塩作り、旅行、読書、サウナ、クラシック音楽を聴く、料理

各市の高齢者率・人口・人口に対するシルバー利用者率（表 4）

	富山市	滑川市	射水市	砺波市
高齢者率	28.9%	29.4%	30.9%	34.1%
各市の総人口	415,816 人	32,500 人	91,129 人	48,659 人
各市の総人口に対するシルバー利用者率	0.02%	0.04%	0.02%	0.03%

IV. 考察

日本では、高齢化率が 28% と最も高いことがわかる。よって、退職後から生涯を終えるまでの間生きがいや社会的役割を持って健康に生活したい人が大半なのではないだろうかと考えた。少子高齢化に伴い、労働人口が減少しているため、高齢者の労働の需要が高まっ

ている。3か国の退職後を比較すると、日本は定年退職後の再就職支援などがほかの国と比べて整っており、高齢者の社会的役割が必要とされていることが分かった。(表1と表2)

富山市では需要が高く利用者が多いイメージがあるが、各市の65歳以上の人口に対するシルバー利用者率は大差がないことがわかる。このことから、シルバー人材センターは住む地域に左右されずに働く意欲があれば利用することができると考えられる。さらに、地域や個性を活かした仕事で地域に貢献もしていることがわかった。(表4)

V. まとめ

ミャンマーと中国では、定年後に仕事を支援している組織が少なく、働きたい意欲があっても仕事を探すのは難しい。しかし、高齢化が進んでいる日本は、退職してからも働ける機会がたくさんあり、体力的にも働ける人が多い。その中で、生きがいを求めてシルバー人材センターを利用する人がいる。生きがいを目指す高齢者のために、シルバー人材センターという組織は、有用で健康を保持し、生きがいを持って働ける場所である。このことから、高齢者にとって社会とのつながりを深めることで高齢化が進んでいる社会だからこそ私たちの大先輩であり長く生きていたからこそ培った知識や技術を発揮させる役割がある。少子高齢化で働く中で、人手が足りないところでまだ働きたいという高齢者が参加することで、地域又は社会の活性化につながる。

VI. 参考文献

- 1 富山市 TOYAMA CITY OFFICIAL WEB SITE <https://www.city.toyama.toyama.jp>
- 2 滑川市 NAMERIKAWA CITY OFFICIAL SITE <https://www.city.namerikawa.toyama.jp>
- 3 射水市ホームページ <https://www.city.imizu.toyama.jp>
- 4 砺波市ホームページ「統計となみ」 <http://www.city.tonami.toyama.jp>
- 5 国民衛生の動向 2020/2021 一般財団法人厚生労働統計協会
- 6 戴 二彪「日本の人口高齢化による地域経済成長への影響」アジア成長研究所 2015